

越前水仙と人々の暮らし

越前海岸の水仙畑（越前町梨子ヶ平）

「越前海岸の水仙畑の文化的景観」 福井県内初、国の重要文化的景観に選定へ

文化的景観とは

「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のために欠くことのできないもの」（文化財保護法第二条第1項）



「越前水仙」を育んだ営みの景観

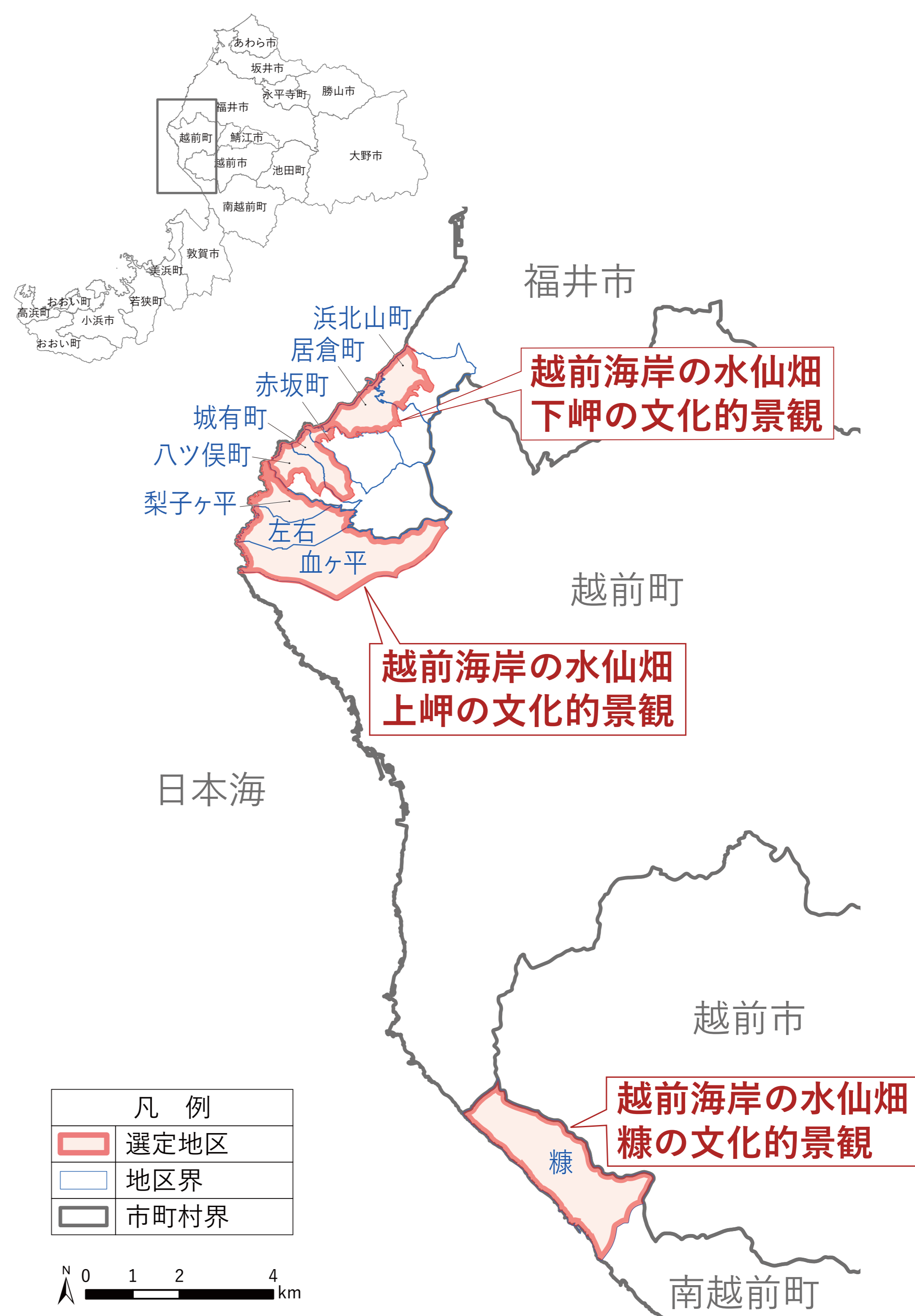
越前湾の水仙畑（福井市居倉町）

越前海の水仙畑（南越前町糠）

「越前海岸の水仙畑の文化的景観」

福井県嶺北地方の西部、丹生山地が東に迫り、急な崖と斜面が連なる越前海岸。「越前水仙」はこの険しい地形の中で栽培されています。人々は冬の副業の一つとして、斜面に自生する水仙の摘花・販売を営んでいましたが、近代から戦後には、斜面や棚田に栽培地を広げ、水仙を地域の特産品へと発展させてきました。

「越前海岸の水仙畑の文化的景観」は、独特の地形や自然環境を背景に、暮らしの知恵と工夫、営みの中で形成された、水仙畑や集落が織りなす景観です。これが重要と評価され、令和2年度、福井市下岬地区、越前町上岬地区、南越前町糠地区の3件が、県内初の「重要文化的景観」に選定されます。「重要文化的景観」は国の文化財の一つで、令和2年度で全国70件となります。



重要文化的景観の選定地区

日本海の冬を彩る 可憐な「雪中花」

凛として咲き、健気で可憐な冬の芳香が甘く漂う。
日本海の寒風は花を引き締め、香りを強くする。
雪国なのに温暖な気候は水仙にちょうどいい。

地中海から海を渡った水仙

「越前水仙」はヒガンバナ科ニホンズイセン。約30種ある水仙の1つ。地中海原産の水仙がはるかシリアを経てシルクロードを通り、中国に伝わりました。中国からは球根が海流で運ばれ、平安時代に日本に漂着し、広がったと考えられています。

水仙栽培に適した温暖な気候

12月から2月頃、越前海岸には一面に白い花が咲き誇ります。千葉県房総半島、兵庫県淡路島とともに、日本三大水仙群生地の一つで、水仙栽培面積は約76ヘクタール。日本一の広さを誇ります。

地中海が原産の水仙は温暖で降雨のある海岸地帯を好みます。越前海岸は暖かい対馬海流と強い海風のおかげで比較的暖かく、北陸の雪国なのに雪があまり積もりません。越前海岸で水仙栽培が広がった理由の一つは、この気候にあります。



昭和40年代の雪の中の水仙畑と収穫の風景（福井市居倉町）
[福井県立歴史博物館提供]



一面に水仙が咲き誇る水仙畑の風景

風土を生かした水仙栽培

荒々しく、厳しい地形の越前海岸に暮らす。
水仙が好む、急斜面、水はけの良い土壌。
水仙栽培は、独自の気候・地形を生かした生業だ。

越前海岸の荒々しさを象徴する海食崖「呼鳥門」と、その崖上に広がる水仙畑「梨子ヶ平園地」（越前町梨子ヶ平）

荒々しい地形の越前海岸

奇岩・奇勝が特徴の越前海岸。海岸線に沿う断層を境に大地が隆起し、日本海の激しい荒波や風の侵食を受けて、奇岩、断崖、急斜面が織りなす、荒々しくダイナミックな景観がつけられました。

その反面、険しい地形のために平地は少なく、隆起による海岸段丘面、海岸部、谷間河川沿いのわずかな平坦地や、比較的緩やかな斜面地に、人々は集落や棚田、畑をつくり、生活を営んできました。

水仙に適した土壌・風土

急な斜面と、火成岩や礫岩を基盤として薄い表土が作る土壌は、土中で球根が腐らないように水はけの良い土地を好む水仙にとって最適でした。

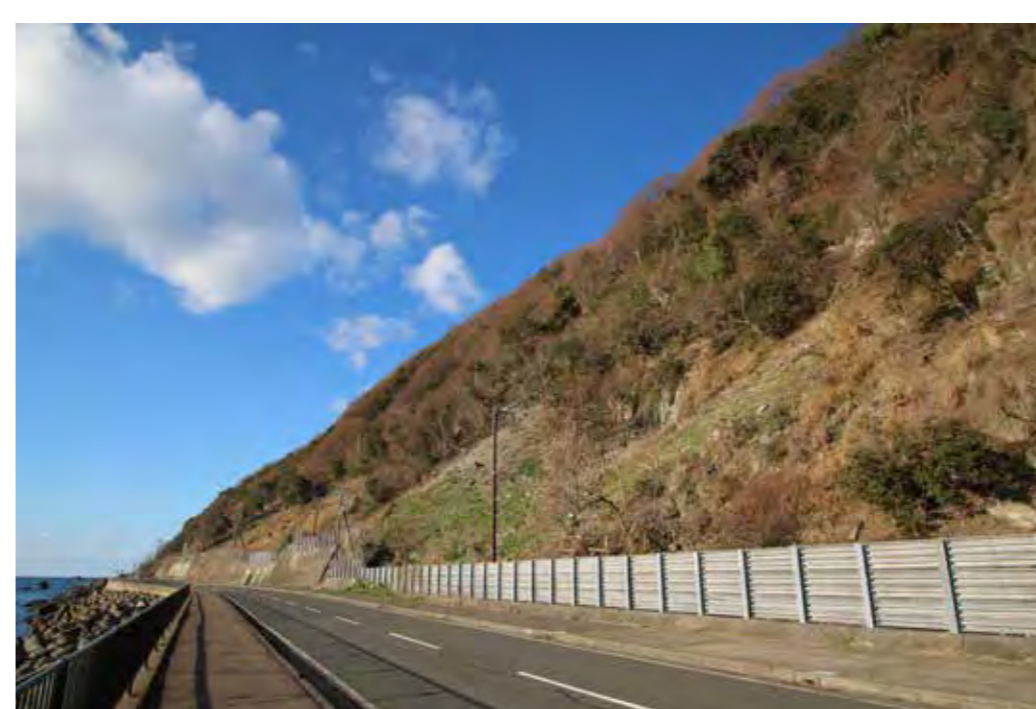
比較的温暖な気候と、この地形が幸いし、この地には古くから水仙が自生し、近代には水仙栽培が広がります。このように、水仙栽培は、地域の気候・風土を生かした生業といえます。



海岸部に連なる急斜面と、斜面に広がる水仙畑（福井市城有町）



大断崖の鳥糞岩と、崖を背にした半農半漁の集落（越前町左右）



甲楽城断層を境に隆起した直線的に連なる急斜面に広がる水仙畑（南越前町糠）



山間谷筋の斜面地で水仙を栽培（越前町血ヶ平）



海岸段丘の丘上や緩斜面の棚田跡の水仙畑の広がり（福井市城有町）



海沿いと段丘上に形成された集落が営む、斜面の水仙畑（福井市浜北山町・居倉町）



谷間に形成された集落（南越前町糠）



高台谷筋の集落と棚田跡の水仙畑（越前町梨子ヶ平）



昭和40年代の段丘上の畑（福井市八ツ俣町）
【福井県立歴史博物館提供】



昭和40年代の左右漁港（越前町左右）
【福井県立歴史博物館提供】



農業・漁業を中心に 支えてきた暮らし

縄文時代から人の営みがあった越前海岸。
限られた平地と斜面を生活の場として、
時代に応じた柔軟な生業・生活を営んできた。

昭和40年代、水田だった頃の梨子ヶ平千枚田（越前町梨子ヶ平）
【福井県立歴史博物館提供】

農業・漁業中心の幾つもの営み

古代から人が住んだ越前海岸では、限られた平地に集落を築き、斜面に石積みの棚田をつくり、農林業や漁業中心の暮らしが営まれてきました。

福井市居倉町には縄文時代の遺跡や、海産物などを年貢に納めた鎌倉時代の記録が残ります。江戸時代には農業に加え、海岸部の集落では漁業が発達します。塩の製造や、幕末から明治期の北前船の船乗りにも携わるものもいました。従来の林業に加え、明治・大正時代には、薪や木炭、油桐、桑などの生産、戦後は果樹栽培、冬には杜氏などの出稼ぎにも出るなど、人々は時代に応じて、幾つもの生業を営み、暮らしてきました。

そして明治時代、冬の貴重な収入源として水仙栽培が本格的に始まります。



昭和40年台のワカメの天日干しの風景、ワカメ漁は現在も地域の大事な生業（越前町左右）
【福井県立歴史博物館提供】



昭和40年代、夏の風物詩だったウニ漁の風景（福井市居倉町）
【福井県立歴史博物館提供】

冬の副業から地域の特産へ 広がる水仙畑

越前海岸に自生する水仙の収穫から栽培へ。
斜面地を水仙畑に、農地を水仙畑に。
一面に広がる水仙畑の景観は、地域で生きる営みのかたち。

斜面地に水仙が咲き誇る（越前町）

水仙栽培の発展

室町時代に將軍家へ献上されたという越前水仙。中世には福井は既に水仙の産地でした。

明治時代、農家の冬の副業として、水仙を福井都心部等で販売します。これが予想以上に売れ、明治後期から昭和初期、名古屋や京阪地方へ販路を拡大し、交通網の整備や出荷組合の組織化により、水仙栽培は地域を代表する産業に発展します。

斜面や棚田へ、栽培地の拡大

急斜面に自生する水仙を採取・出荷したのが水仙栽培の始まりです。出荷量の増加に伴い、他作物の耕作に不向きな急斜面に移植して出荷量を増やし、就農者の減少や昭和40年代からの減反政策により、棚田なども水仙畑に転換し、栽培面積を増やしてきました。このように、斜面地や棚田一面に水仙畑が広がる景観がつけられたのです。



昭和30年代の水仙収穫の風景（福井市居倉町）
【福井県丹生郡誌】



急斜面の水仙畑、土地の境界として植えられたイチョウは水仙の日除けとなる（福井市城有町）



海に面して続く急斜面に広がる水仙畑（南越前町糠）



棚田だった千枚田水仙園、日本の棚田百選にも選定（越前町梨子ヶ平）

水仙畑を支える人たち

水仙栽培を生業として、地域で生きる。
営みが培ってきた独自の風景。
風景の主役は、地域を誇り、そこに暮らす人々。

福井市居倉町の水仙農家

水仙の広がる風景、主役は人

水仙栽培には、6月、9月頃の下草刈りが欠かせません。また、分球した球根が過密になり生育が悪くならないよう、数年毎に球根を植え替えます。露地栽培での収穫は12月～1月。正月花として需要が高まる12月下旬が最盛期。収穫した水仙は長さ、葉の枚数や痛みの状況など厳しい規格毎に選別し、出荷します。天候に左右される出荷時期を人為的に早めた促成栽培、逆に遅めた抑制栽培も行われています。

地域の水仙農家は120人ほど。漁業や勤めに出たり、いくつもの仕事をしながら暮らしています。高齢者が多く、急斜面での水仙栽培はとても労力がかかりますが、畑がしっかり管理されているからこそ、一面に水仙が広がる他にない風景がつけられているのです。風景の主役は地域で暮らし、水仙栽培を担う人々なのです。



出荷できる水仙を見極めて収穫



球根の植え付け作業



収穫した水仙を束ねる



葉先の状態まで真剣に水仙を選別



昭和 40 年代の水仙出荷 [福井県立歴史博物館提供]



水仙の収穫



福井市居倉町の水仙農家



昭和 40 年代の水仙の選別作業 [左右 林氏提供]



水仙栽培の風景

急斜面での水仙収穫



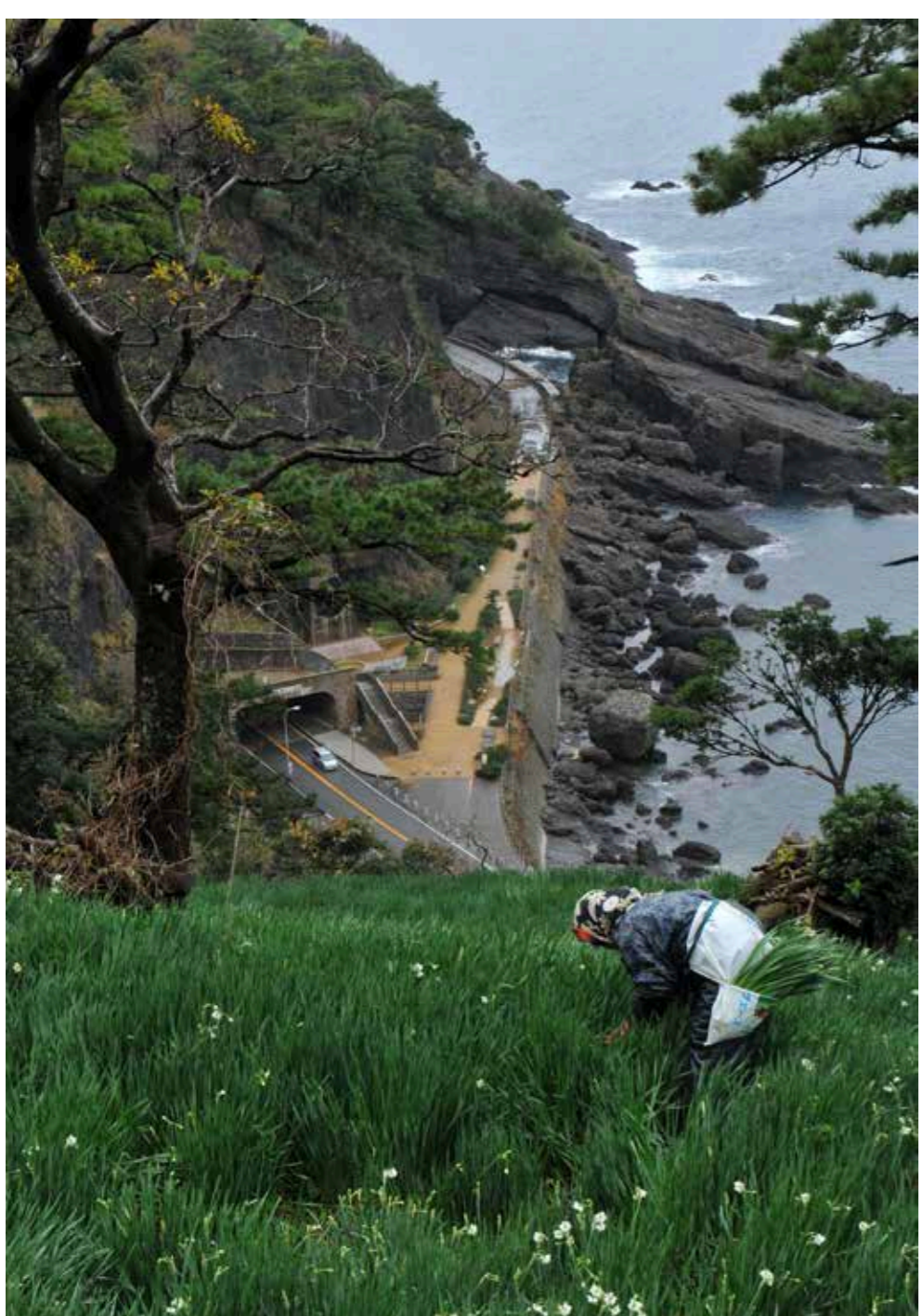
収穫した水仙を束ねる



昭和 40 年代の水仙収穫 [福井県立歴史博物館提供]



手押し車で水仙を運ぶ [梨子ヶ平 和田恵美子氏提供]



斜面で水仙を収穫する農家と呼鳥門



急斜面での水仙収穫



棚田跡の水仙畑での水仙収穫



水仙と子ども達 [居倉町 鍛田すみ子氏提供]



収穫に使う腰籠



福井市居倉町の水仙農家



暮らしの舞台

人々が住み、暮らしを支える集落。
町並みには信仰や営みの歴史が息づく。

漁業も営む谷筋の糠集落、集落には路地が広がる（南越前町糠）



谷筋に築かれた血ヶ平集落の町並み
集落を流れる玉川川は水仙の洗い場ともなる（越前町血ヶ平）



高地にある城有町集落の町並み、海側斜面で水仙を栽培する
その名の通り、中世に山城があった（福井市城有町）



町並みを作る伝統的な農家型の民家は、
切妻・妻入、格子組の妻壁が特徴



左右の神明神社。各集落の寺社は
歴史と信仰の大事なシンボル



斜面地の集落に見られる石積み擁壁は、
平地を作り、土地を有効に利用するため



杜氏関連功労碑。半農半漁の糠では、
冬の副業として酒造りの出稼ぎが盛んだった

集落が伝える歴史と営みの景観

海沿いや山腹、谷間など、わずかな平地や緩斜面に人々は住み、様々な生業を営みながら水仙畑を広がていきました。集落内には家屋が高密度で建ち、山間の集落には、伝統的な農家型民家が見られます。集落内の寺社や、様々な伝統行事も、信仰や営みの歴史を伝えます。南越前町糠地区には、副業だった杜氏の歴史が色濃く残ります。

人々の暮らしの舞台であり、歴史を伝える集落は、水仙畑とともに、地域の営みの景観の大事な一部なのです。



山腹の梨子ヶ平集落、伝統的な農家型住宅が建ち並ぶ（越前町梨子ヶ平）



居倉町春日神社春季例祭、観音寺での神楽奉納



浜北山町春日神社の餅まき神事

冬の福井を象徴する風景に

一面に広がる水仙畑、至るところに咲き誇る水仙。
営みがつくりだした、冬の日本海の風景は、
多くの人を惹きつける。



一面に水仙の花が広がる梨子ヶ平園地（越前町梨子ヶ平）

営みが培った文化的景観

日本海の風雪に耐え、凛と咲く水仙の忍耐強さが県民性に通ずるとして、昭和 29 年、越前水仙は県花に選ばれます。地域で生きる人々によって培われてきた、水仙が一面に広がる風景は、多くの観光客も惹きつける、冬の福井を代表するものとなりました。平成 23 年には、水仙畑が福井の美しい景観「福井ふるさと百景」の一景にも選ばれます。

水仙畑、荒々しい自然地形、集落や山林などが織りなす独自の景観は、地域の自然との関わり合いの中で、知恵と工夫を重ねて生きてきた、人々の歴史や営みを伝えます。営みが培った固有の景観、これが文化的景観なのです。



斜面に咲く水仙と日本海（南越前町糠）



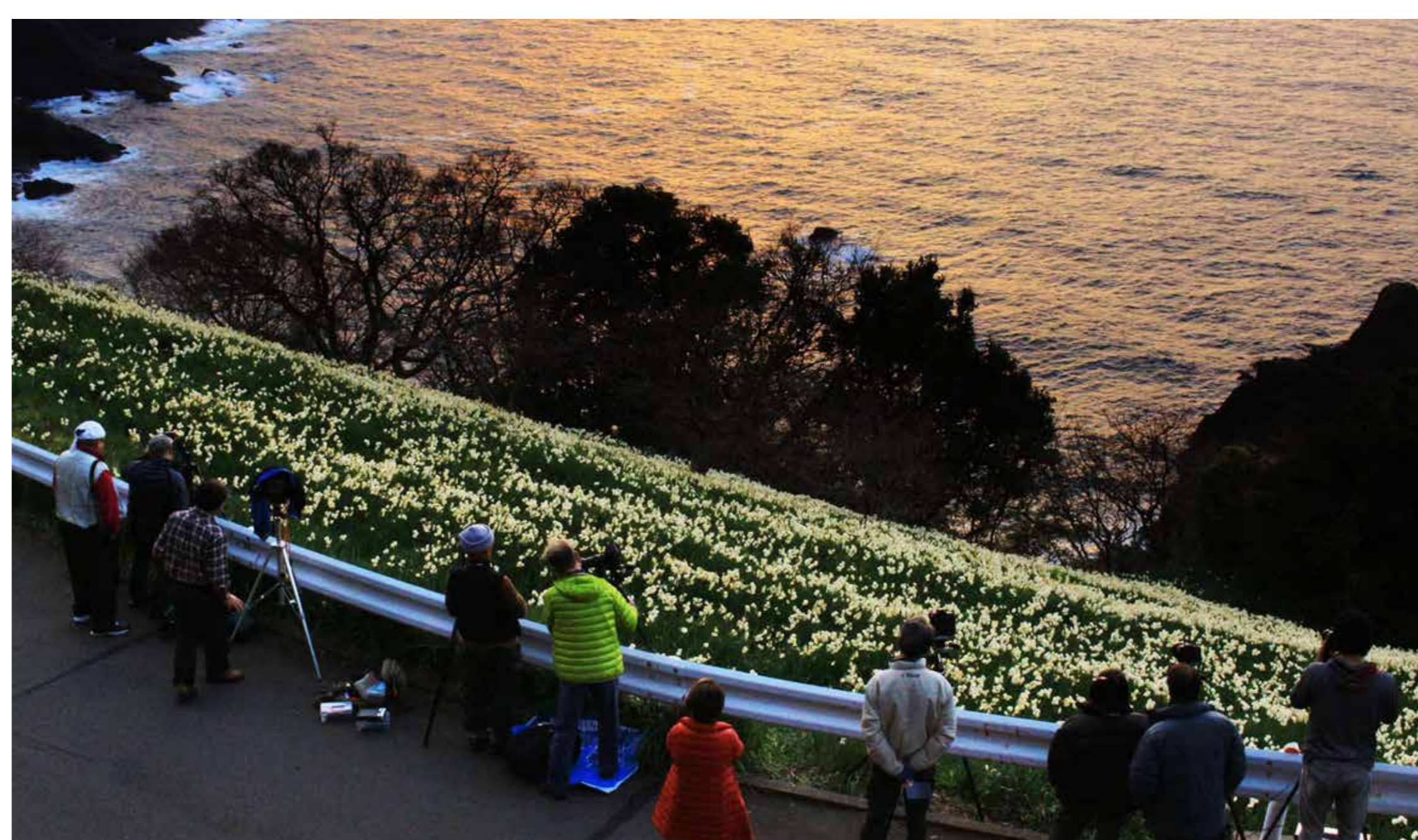
水仙ランド周辺の斜面には水仙が咲き誇り、多くの観光客で賑わう（越前町血ヶ平）



水仙畑、集落、日本海が織りなす景観（福井市浜北山町）



「水仙まつり」では、水仙娘が観光客をおもてなし



水仙と日本海の風景を楽しみに多くの観光客が訪れる（越前町梨子ヶ平）



1. 水仙畑（斜面地） 居倉町の水仙畑



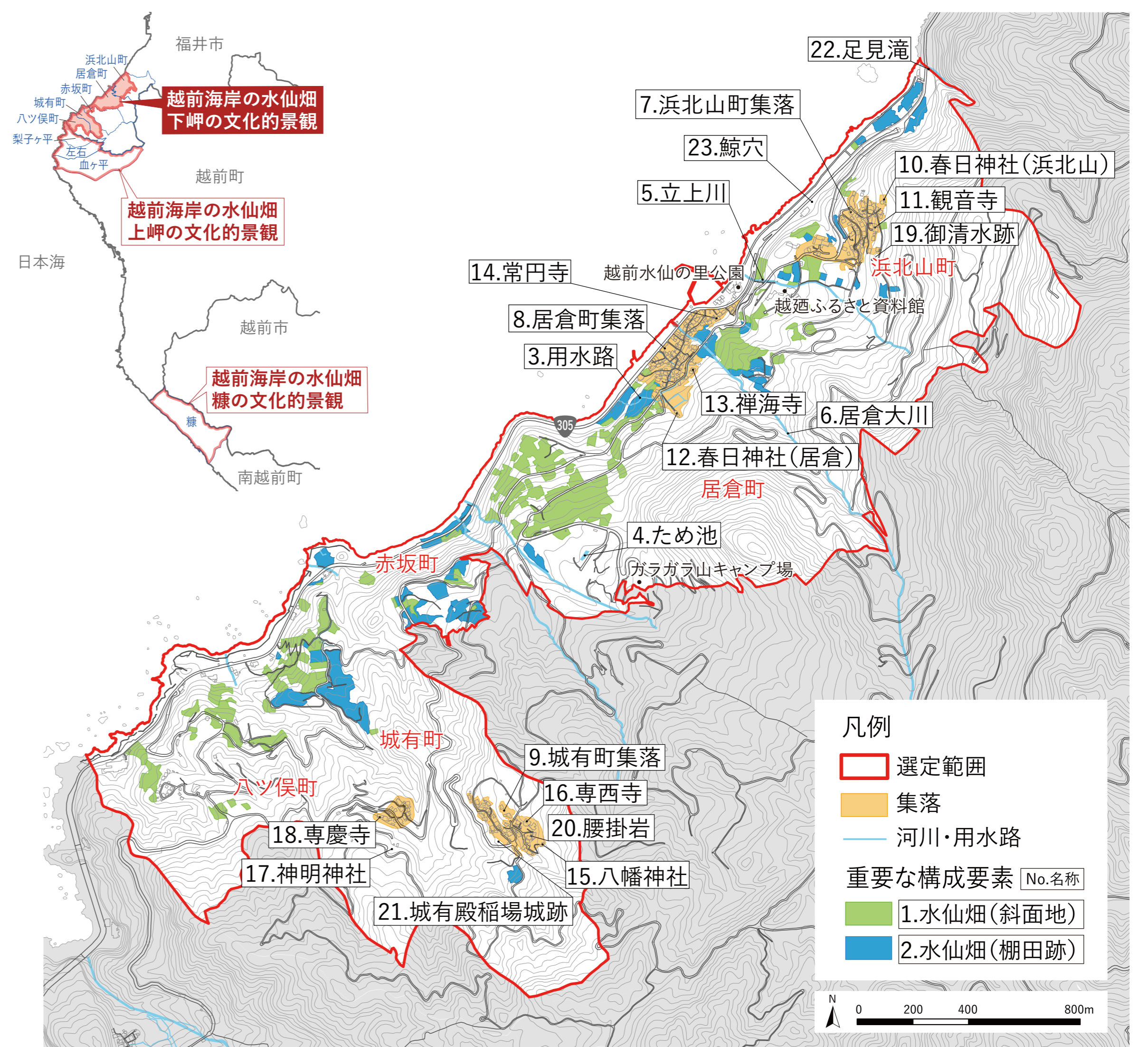
2. 水仙畑（棚田跡） 城有町の水仙畑

「越前海岸の水仙畑 下岬の文化的景観」

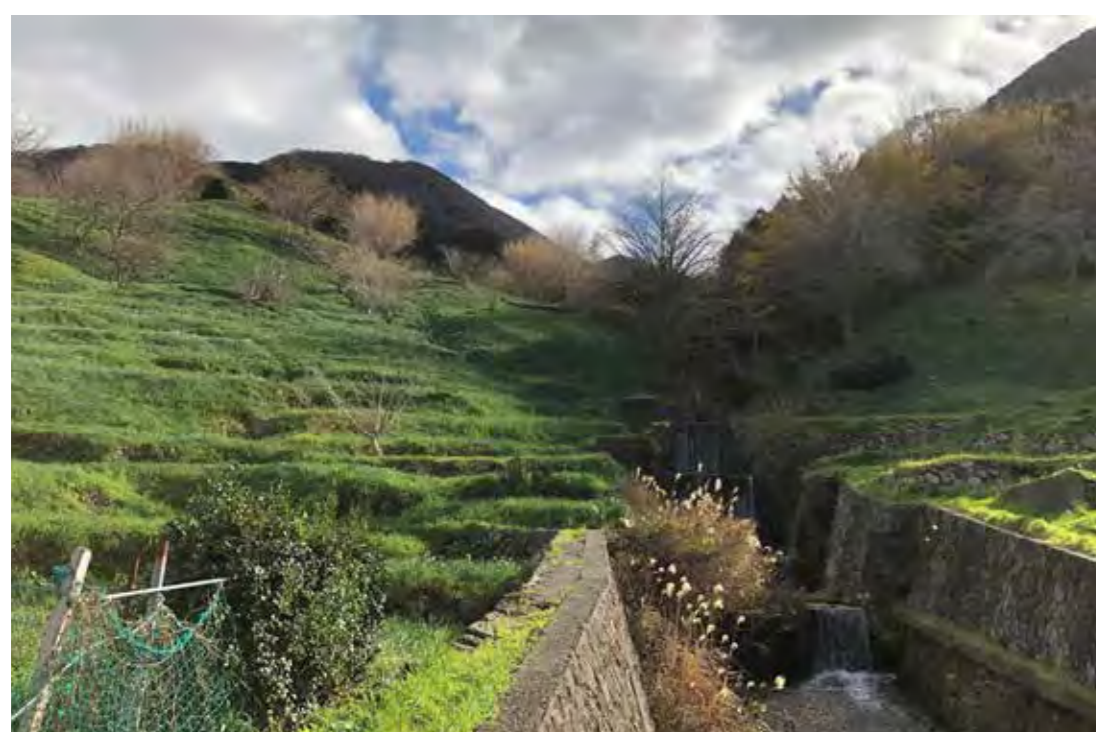
福井市下岬地区（居倉町、浜北山町、赤坂町、城有町、ハツ俣町の各一部）

福井市下岬地区は、海際に連続して広がる緩斜面や海岸段丘面に、棚田の石積みや銀杏、柿などの果樹を残しながら広がる水仙畑が特徴です。また、この地形の中で形成された、漁業、林業、農業を生業としてきた、海沿いの集落や、段丘上、山間の集落の景観は、暮らしの歴史と文化を伝えています。

「越前海岸の水仙畑 下岬の文化的景観」は、水仙畑とこれら集落が織りなす景観で、選定面積は 354.7ha です。この景観の特徴や、営みの歴史を示すために不可欠なものを、重要な構成要素として保護していきます。



「越前海岸の水仙畑 下岬の文化的景観」の重要な構成要素



6. 居倉大川

川や用水は、かつての農業や生活用水として欠かせず、生業の歴史を伝える要素



8. 居倉町集落

海沿いの斜面に形成され、水仙栽培を担う生活の場として重要



9. 城有町集落

山間に形成され、水仙栽培を担う生活の場として重要



10. 春日神社（浜北山）

神社は、年中行事も行われ、人々の生活・信仰の場となる重要な要素



18. 専慶寺

地域の歴史や人々の信仰を表す寺院は重要な要素



19. 御清水跡

集落の上水として利用されていた清水跡 生活史を物語る場



21. 城有殿稻場城跡

戦国時代の城跡と伝わり、地名のもとにもなる集落の歴史を物語る史跡



22. 足見滝

水仙発祥伝説にも語られる滝 地域の自然を特徴づけるものとして重要



1. 水仙畑（斜面地） 梨子ヶ平園地



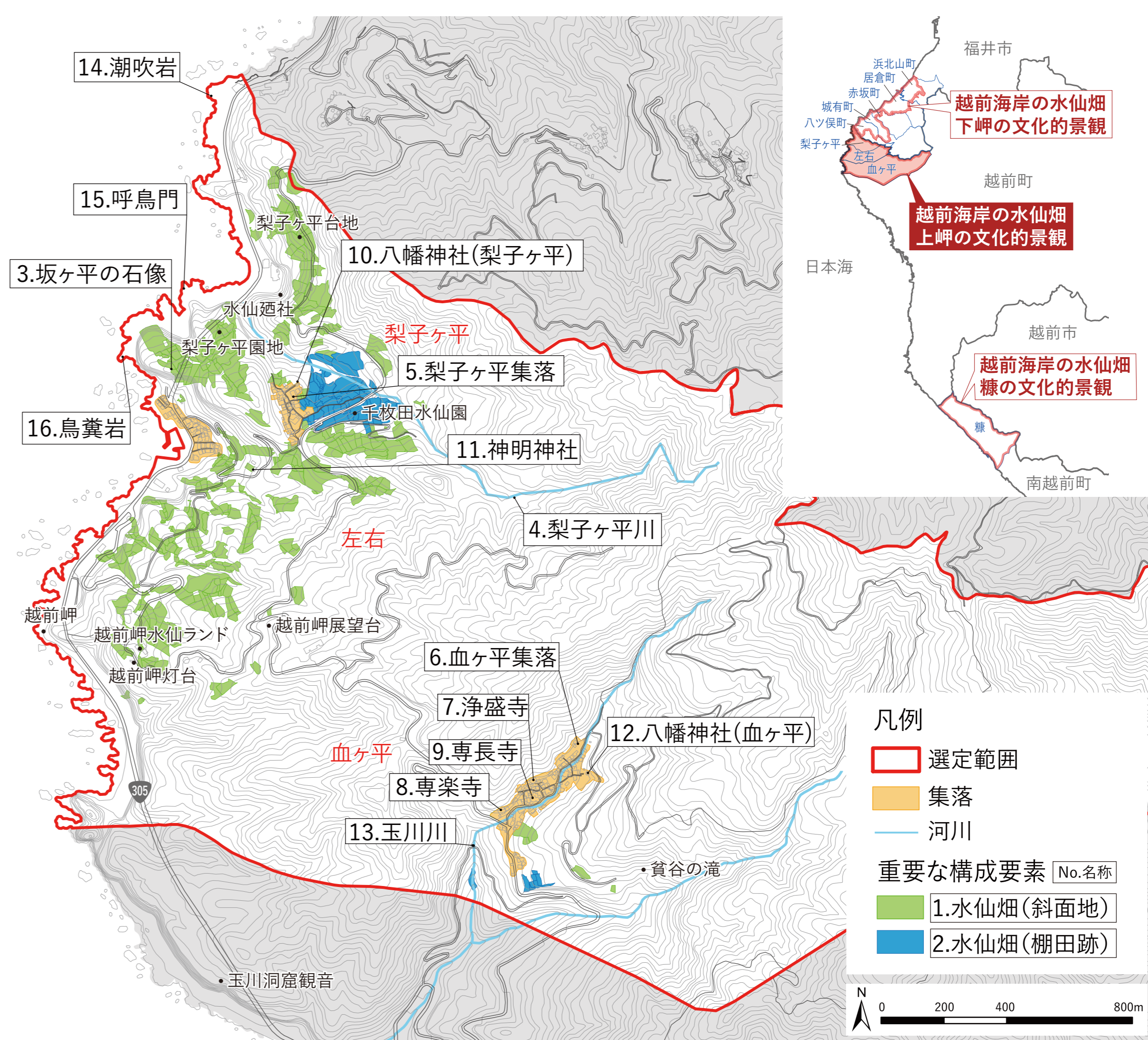
2. 水仙畑（棚田跡） 千枚田水仙園

「越前海岸の水仙畑 上岬の文化的景観」

越前町上岬地区（梨子ヶ平、左右、血ヶ平の全域）

越前町上岬地区は、越前岬の隆起と侵食によって作られた、高い崖上の段丘面と、これに続く斜面地、石積みで築かれた広大な棚田跡に広がる水仙畑が特徴です。また、この地形の中で形成された、農業や山林での営みを生業としてきた、山裾、山間谷筋の集落の景観は、暮らしの歴史と文化を伝えています。

「越前海岸の水仙畑 上岬の文化的景観」は、水仙畑とこれら集落が織りなす景観で、選定面積は 603.4ha です。この景観の特徴や、営みの歴史を示すために不可欠なものを、重要な構成要素として保護していきます。



「越前海岸の水仙畑 上岬の文化的景観」の重要な構成要素



3. 坂ヶ平の石像
海上安全を祈願して石像が祀られる地域の歴史を表すものとして重要な要素



5. 梨子ヶ平集落
山裾に形成され、水仙栽培を担う生活の場として重要



6. 血ヶ平集落
山間の谷筋に形成され、水仙栽培を担う生活の場として重要



9. 専長寺
地域の歴史、人々の信仰の場として寺院は重要な要素



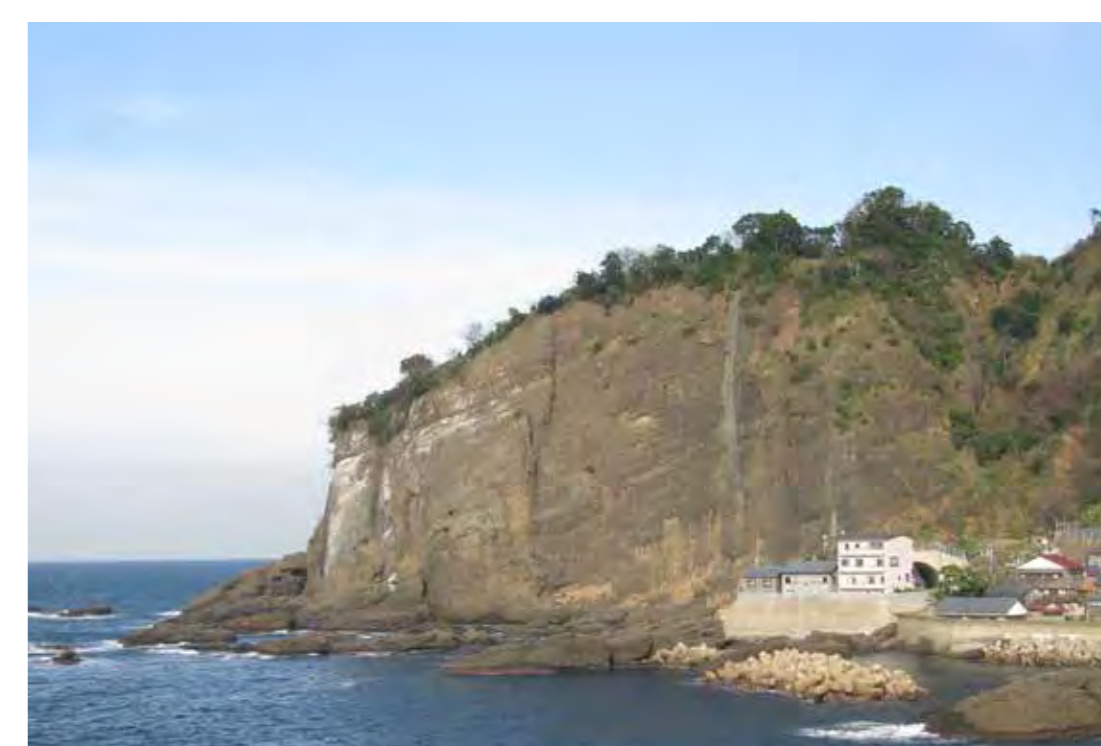
10. 八幡神社（梨子ヶ平）
春祭りや秋祭りなどの行事も開催される神社は人々の生活・信仰の場として重要



13. 玉川川
かつての生活用水であり、水仙洗浄にも利用川は生業の歴史を伝える要素



15. 呼鳥門
風と波の侵食で作られた洞穴
越前海岸の自然特性を顕著に示す重要な要素



16. 鳥糞岩
隆起によって作られた断崖
越前海岸の自然特性を顕著に示す重要な要素



1.水仙畑（字 浜大比良）

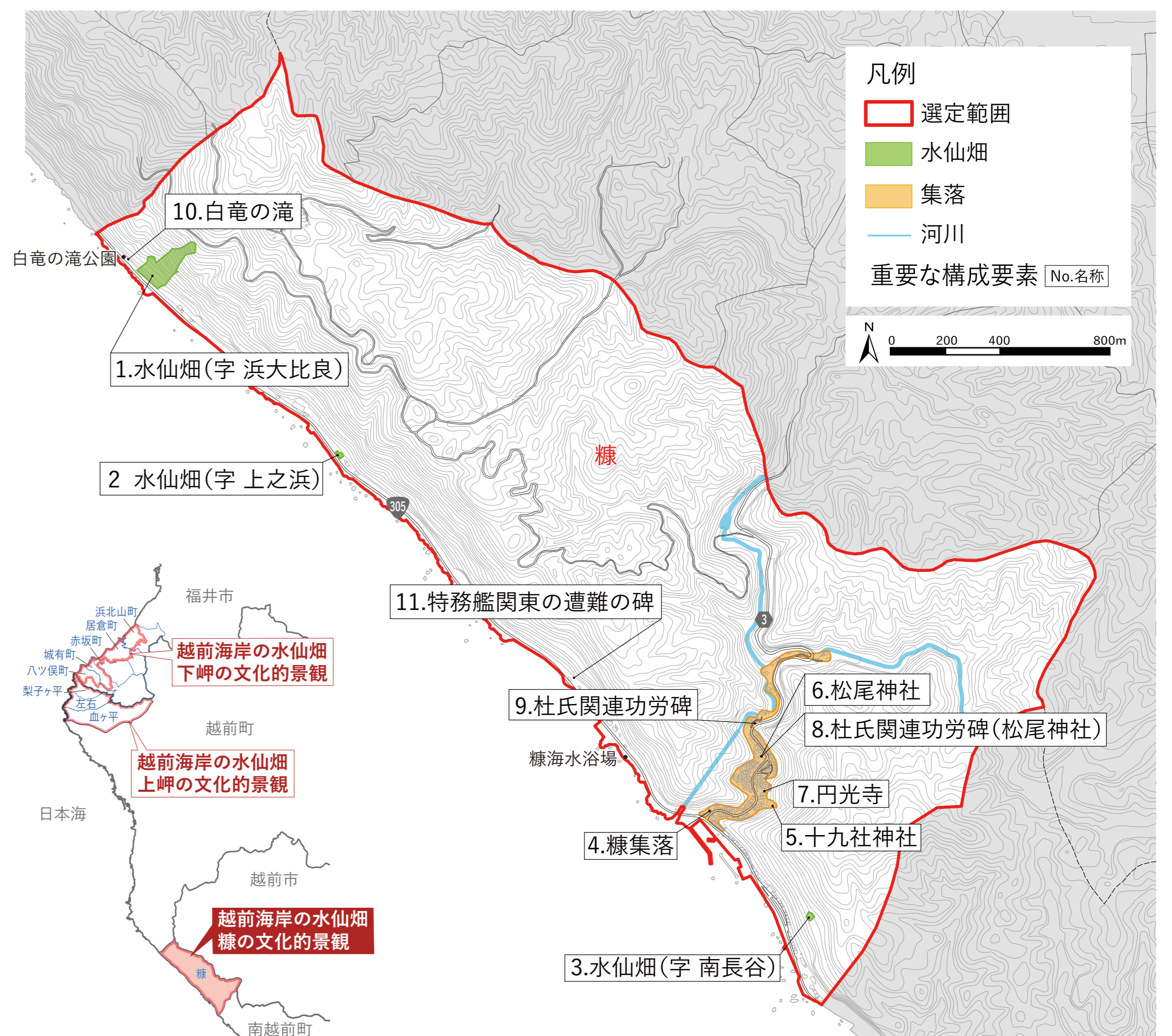
3.水仙畑（字 南長谷）

「越前海岸の水仙畑 糠の文化的景観」

南越前町糠地区（糠の全域）

南越前町糠地区は、海岸線に沿う断層を境に隆起した、国道沿いの直線的な崖に作られた水仙畑が特徴です。谷筋の半農半漁の糠集落では、漁業を主な生業としながら、かつては冬の副業に、男性は杜氏として出稼ぎに出て、残った女性が水仙栽培を行ってきました。集落の景観は、この暮らしの歴史と文化を伝えています。

「越前海岸の水仙畑 糠の文化的景観」は、水仙畑とこれら集落が織りなす景観で、選定面積は 522.4ha です。この景観の特徴や、営みの歴史を示すために不可欠なものを、重要な構成要素として保護していきます。



「越前海岸の水仙畑 糠の文化的景観」の重要な構成要素



4. 糠集落

谷筋に形成され、漁業とともに水仙栽培を担う生活の場として重要



5. 十九社神社

火祭りや秋祭りなどの祭事が行われる地域の歴史・信仰の場として重要



6. 松尾神社

糠杜氏組合により創建された地域の生活・信仰の観点から重要



7. 円光寺

地域の歴史と人々の信仰の場として寺院は重要な要素



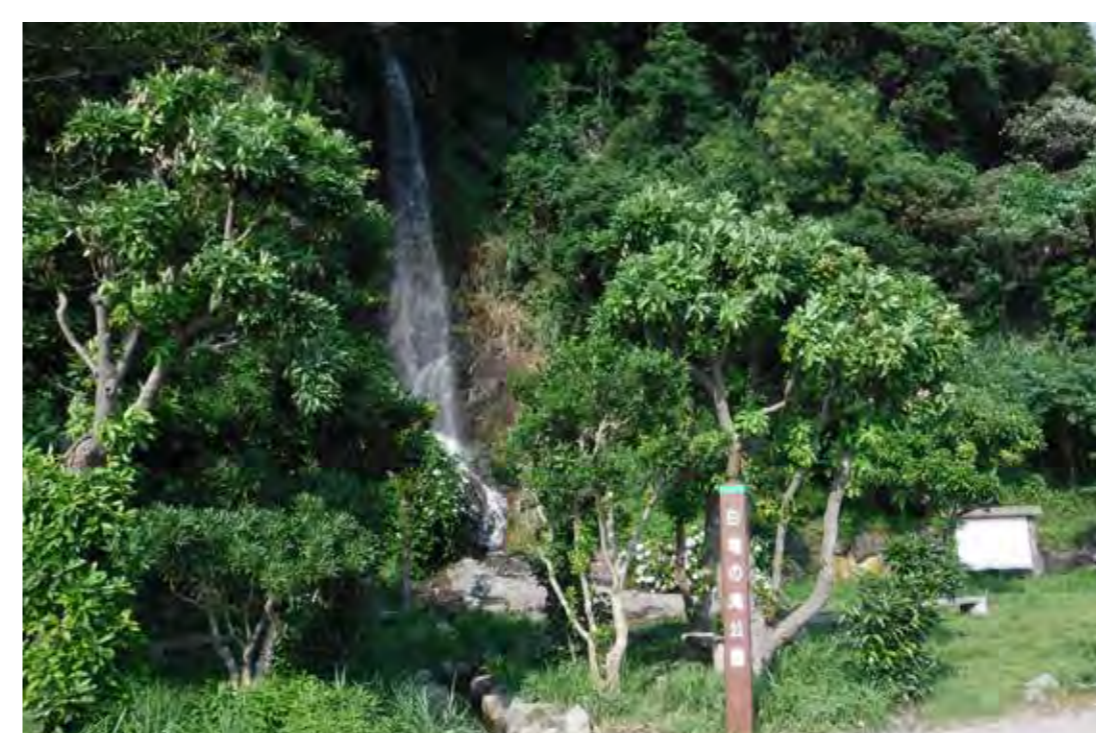
8. 杜氏関連功勞碑（松尾神社）

糠杜氏の発展に尽力した杜氏の功勞碑生活・生業の歴史を伝える要素



9. 杜氏関連功勞碑

糠杜氏の発展に尽力した杜氏の功勞碑生活・生業の歴史を伝える要素



10. 白竜の滝

集落の発祥を伝える滝自然の特性を示す要素として重要



11. 特務艦関東の遭難の碑

座礁した特務艦「関東」乗組員の慰靈碑懸命な救助活動をした集落の歴史を伝える要素